

本土最南端は、 海と空だけ。 どこにもない景色が、 ここにある。

*Cape Sata in Osumi Peninsula
Found at the southern tip of Mainland Japan*

エキゾチックな亜熱帯性植物と 1300年を超える歴史ある御崎神社

北緯31度、本土最南端の岬。佐多岬エリアは沖を流れる黒潮の影響もあり高温多湿な気候。駐車場から展望台までは約15分(800m)の遊歩道として整備され、自生するソテツやガジュマル、ハイビスカスやブーゲンビリアなど亜熱帯性の植物が生い茂り楽園気分を感じさせてくれる。遊歩道の途中に姿を見せる赤と白のコントラストが映える社は、708年に創立された御崎神社。「交通・航海の安全、五穀豊穡、商売繁盛の神で特に大昔より由来ある縁結、安産の神として全国的に参拝者が絶えない」と記されている。近年は縁結びのパワースポットとしても人気を集めている。



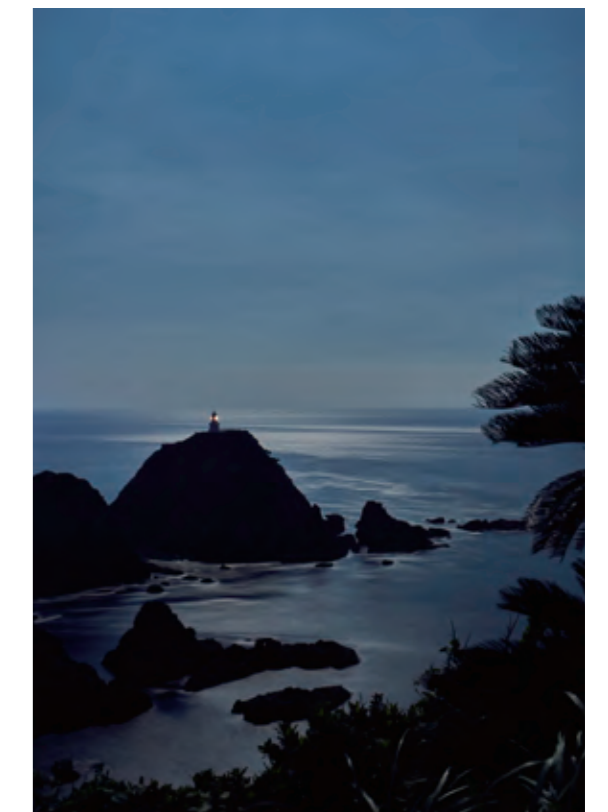
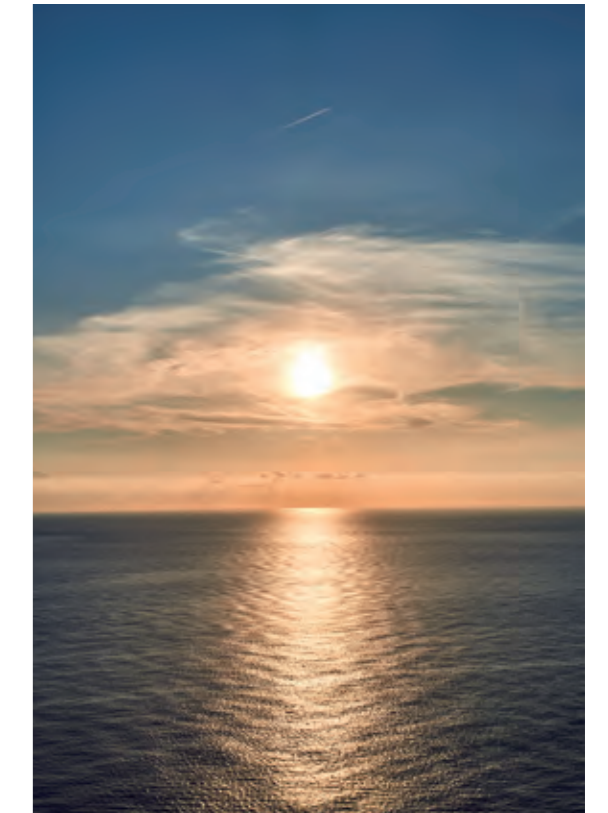
一段、また一段、展望台への階段を登る。眼下に広がる海、見渡す限りの空に「ハッ」と息を飲む。やがて遅れて寄せてくる波の音に「ホッ」とする。天候に恵まれると、錦江湾を挟んで薩摩富士の名で知られる開聞岳、はるか先の種子島などの島々を望むこともできる。海に誘われて、空に招かれて。ここには、最南端の地にたどり着いた者だけが感じることのできる、特別な時間が流れている。

本土最南端・佐多岬のシンボルは 海の安全を守る白い灯台

断崖の先の小島にそびえる白い灯台。明治4年にイギリス人設計士により日本最古の灯台の1つとして建設された。「日本の灯台50選」に選定されたのは、海と空を背景にしたその風景ごと記憶に残るからだろう。現在の灯台は空襲による焼失で昭和25年に再建された2代目だが、明治時代から変わらず航海の安全を守り続けている。自然と人々の営みを見守り続けてきた時間の積み重ねによるものか、ロマンチックでノスタルジーを感じる灯台だ。道走り抜けてたどり着く最南端は、遠いからこそ、旅人にとっての永遠の目的地になるのだろう。ここにしかない景色と時間がある。



天気により季節により時間により、多彩な表情を見せる。昼間の青い海と空はもちろん、夕暮れから日没のタイミングを狙う来訪者も多い。



上：サンセット時は太陽の道が海の上に。
下：月明かりに浮かび上がる夜の佐多岬。



駐車場に車を止めトンネルを抜けると、本土最南端に続く遊歩道が始まる。



遊歩道脇は、南国らしい亜熱帯植物群を目にすることができ、独特のムードに彩られている。



佐多岬を360度、全方位で楽しめる展望台。ここでしか見ることができない景色が広がる。



駐車場や案内所がある公園エントランスでは早朝には日の出を見る人の姿も。



佐多岬展望台

住 南大隅町佐多馬籠 416
料 無料 休 無休
時 8:00～日没
▲website

①亜熱帯の森の中に現れる御崎神社。②観光案内所で人気の塩ソフトクリームは、佐多岬で作られる塩が使用されている。③1870年代に建てられた灯台守官舎跡。当時は交通の便が悪く建設には想像を絶する苦労があった。④観光案内所では電動アシスト付き椅子が貸し出しされている。

佐多岬観光案内所

住 南大隅町佐多馬籠 413-5
☎ 0994-27-3151
料 無料 休 無休
▲website 時 9:00～17:00

